

IoS-OP

星港セミナー初開催

船社などから145人参加

IoS（船のインターネット）オープンプラットフォーム（IoS-OP）は17日、シンガポールセミナー（ウェビナー）

を初めて開催した。「現存船におけるCII（燃費実績格付け制度）対策とレトロフィット（既存船への搭載）」をテーマに実施。海外に関して昨年台湾向けを開催して

たが、シンガポール向けは初となる。船社、船舶管理会社などから145人が参加した。

IoS-OPの参加企業で構成するIoS-OPコンソーシアムの小山智之議長（日本郵船専務執行役員技術本部長）はあいさつで、「IoS-OPは、海運業界における船舶運航データの共有

プラットフォームとして、シップデータセンター（ShipDC）が運営。IoS-OPコンソーシアムによる管理の下、高い公平性、信頼性、独立性を確保し、運営されている」と説明。

「2018年に発足した日本発の取り組みで、非日系企業を含む66社が参加している。参加者に求められる最も重要な要件は、国籍ではなく、同じルールに従うこと」と語った。



司会を務めたShipDCの
ヴィクラント・シャルマ氏